

全日本学生剣道連盟の歴史年表(昭和27年～平成29年)

年号	全日本学生剣道連盟	全日本剣道連盟	主な出来事
昭和27年 (1952年)	7月 関東学生剣道連盟が結成された。 (国だけでなく関東学生剣道連盟となる) 12月 第1回関東学生剣道大会が早稲田大学道場で開催された。参加8校。	8月 全日本剣道大会が熊本県日光東照宮において開催された。 10月 第7回国民体育大会に競技技がオープン競技に加入された。 10月 全日本剣道連盟が結成された。	4月 ボツダム宣言発布。 5月 高のマーチン事件。 10月 保安隊発足。
昭和28年	6月 京都に関西学生剣道連盟が結成された。 10月 全九州学生剣道連盟が参加5校により結成された。 10月 全日本学生剣道連盟結成趣意書を作成、配布した。 11月 第1回関西学生剣道大会が京都市警経道場(旧武蔵野)で開催された。 参加10校 12月 13日 全日本学生剣道連盟の結成式並びに第1回全日本学生剣道優勝大会が東京神田の国民体育館で開催された。21校が参加し、中央大学が優勝した。初代の会長に飯森朝造氏が就任された。	5月 全日本剣道連盟第1回京都大会並びに第1回普通行風対抗団体優勝試合が、京都府警経道場(旧武蔵野)で開催された。 11月 第1回全日本剣道選手権大会が、東京麻布の国民体育館で開催され、愛知県の柳屋正雄士が優勝した。	2月 テレビ放送開始。 7月 朝鮮半島戦決定調停。 8月 ソ連が大連特権を声明。
昭和29年	11月 第2回全日本学生剣道優勝大会が国民体育館で開催され、中央大学が優勝した。またこの時、第1回東西対抗戦が実施され、東軍が16対14で勝利を収めた。 この年、東海学生剣道連盟が結成された。	8月 第1回全国高等学校剣道大会が日光市公会堂で開催された。 11月 第1回全日本東西対抗剣道大会が宮崎市で開催された。 3月 全剣連の日本体育協会加盟が承認された。	3月 第五編年大会(ニニ水博覧会)。 4月 ジェネーブ植民地平和会議。 6月 自衛隊発布。
昭和30年 (1955年)	12月 第3回全日本学生剣道優勝大会が国民体育館で開催され、関西学院大学が優勝、また東西対抗は20人戦で行われ東軍が8対7で勝利を収めた。この第3回大会から個人戦も行われ、中央大学の松本静二が優勝した。この年、北陸学生剣道連盟(北陸總連盟の前身)が結成された。 この年、第1回北海道学生剣道大会が開催された。	11月 第1回国民体育大会に、剣道をはじめて正式種目として参加、藤沢市秩父宮体育館に於て剣道大会が行われた。	5月 ワルシャワ条約機構(東欧8ヶ国相互防衛協定)。 8月 広島で第1回原水爆禁止世界大会開催 10月 南ベトナム共和国成立。
昭和31年	10月 第1回東北学生剣道大会が開催された。3校が出席。 11月 第4回全日本学生剣道優勝大会と選手権大会、大阪府吹上公園で24、25の両日に行われて開催され、団体戦では細賀大学、個人戦では法政大学の藤田高樹が優勝した。また東西対抗は30人戦で行われ、東軍が15対5で本戦勝を収めた。この年、第1回日本学生剣道大会が兵庫県神戸で開催された。 11月 アメリカ剣道権限者17人が来日し、16日東京日比谷公会堂で関東学生選抜軍と、21日京都府立総合体育館で関西学生選抜軍と、25日大阪府立体育館で全日本学生選抜軍とそれぞれ対戦試合を行った。	4月 定款が改正され、剣道に原合道、杖道、鎌刀が追加された。 10月 第11回国民体育大会が兵庫県で開催され、今回から高校の剣道が種目に加えられた。	2月 ソ連再参戦第20回大会でワルシャワがスターリンを批判。 7月 エジプト、スエズ運河を国有化宣言。 10月 ハンガリー事件(ソ連軍反ソ暴動鎮圧)、スエズ戦争(第2次中東戦争)が始まる。 11月 ソソ共闘宣言(ソ連との国交回復)。 12月 国連総会で日本の国連加盟を承認。
昭和32年	7月 全日本学生剣道連盟は13名の精鋭を擁して、日米学生剣道親善使節団をアメリカに派遣した。 11月 第5回全日本学生剣道優勝大会と選手権大会が23、24の両日に行われて東京体育館で開催され、団体では法政大学、個人では甲斐大学の白井敦教が優勝した。東西対抗試合は東軍が17対7の6分だけで勝利を収めた。なおこの大会から団体戦5人制を7人制に改めた。 この年、第1回中国留学生剣道大会が開催された。	5月 文部省通知により、従来の「しない競技」と「剣道」を整理統合し、「学校剣道」として、中学、高校で正統体育で実施できるようになった。	3月 ロック・クライド共同体(RO)調停、アフリカで初の独立国ガーナ共和国成立。 8月 茨城県東茨城村の原子炉点火。 10月 ソ連、人工衛星スプートニク1号打ち上げ成功。 12月 ソソ通商条約調停。
昭和33年	11月 第6回全日本学生剣道優勝大会と選手権大会が大阪府国民体育館で開催され、団体では中央大学、個人では中央大学の東上吉が優勝した。東西対抗試合は東軍が2対10の8分だけで勝利を収めた。	7月 全日本剣道連盟に対し、全日本剣道優勝者に授与するために天皇杯が下賜された。 9月 第1回全日本実業団剣道大会が東京後楽園スタジアムで開催された。 10月 第13回国民体育大会が富山県で行われたが、機械競技が大会種目からはずされた。	2月 エジプト、シリアが合併しアラブ連合共和国成立。 7月 イラガが政を廃止し共和制宣言。 10月 フランスで新憲法公布し、第5共和制成立。
昭和34年	11月 全日本学生剣道大会を個人戦・東西対抗戦と団体戦とに分けし、それぞれ別の大会を東京と大阪で毎年交互で開催することが決定された。 6月 第7回(現期には第5回)全日本学生剣道選手権大会が大阪府国民体育館で開催され、関西大学の川上孝志が優勝した。東西対抗戦はこの大会から抜き勝負制が採用されることとなり、前軍が平戦1で勝利を収めた。 第7回全日本学生剣道優勝大会が東京体育館で開催され、東京教育大学が優勝した。 この年、従来の北陸連盟に信州、新潟県大学が加盟して北陸総学生剣道連盟として新発足した。	12月 中国台湾警察訓練一行16人が来日し、各地で日華親善試合を行った。	1月 キューバ革命、カストロ首相就任。 4月 皇太子、正田美智子妃と結婚。 9月 ソソ対立激化。 10月 ソ連、宇宙ステーションでの実験開始を公明。 11月 安福県土壌一帯行動でアマゾン会構内突入。

昭和35年 (1960年)	この年、全日本剣道連盟新習行・剣道記念大会「平」学生剣道事務・試合規定を作成した。 6月 第8回全日本学生剣道選手権大会が東京体育館で開催され、関西大学の川上亨志が優勝した。東西対抗戦は東軍が平戦2で勝利を収めた。 11月 第8回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、中央大学が優勝した。	2月 第1回全国教職員剣道大会が大阪市中央体育館で開催された。 4月 皇親陛下御誕生奉祝記念全日本剣道八段七路指定選手権大会が東京体育館で開催され、中野八十二八段が優勝した。 10月 第15回国民体育大会剣道大会が熊本県八代市で開催され、天皇皇后両陛下が御臨幸になった。	1月 新日本実業体育・行政協定調印。 10月 国会議員に改選社会党委員候補殺される。 11月 アメリカの大統領選で民主党的J.E.ケネディ当選。
昭和36年	6月 第9回全日本学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、中央大学の志土孝が33年に続いて2回目の優勝をした。東西対抗戦は東軍が平戦2で勝利を収めた。 11月 第9回全日本学生剣道優勝大会が東京体育館で開催され、慶應義塾大学が優勝した。	5月 全日本学校剣道連盟が結成された。 7月 日本武道連盟役員選挙が発見された。	4月 ソ連、有人人工衛星ボストーク1号成功。 8月 ベルリンの壁成立。 11月 第1回日米貿易経済合同委員会開催
昭和37年	6月 第10回全日本学生剣道選手権大会が東京体育館で開催され、関西学院大学の柴田英一が優勝した。東西対抗戦は東軍が平戦2で勝利を収めた。 11月 第10回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、明治大学が優勝した。	この年から、中学校で剣道が正規必修となった。 5月 第1回全日本女子剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催された。 8月 41国会衆議院本会議で「国技の総合会館建設に関する決議案」が議事一致で可決された。 この年から、高校で剣道が正規必修となった。 9月 全日本剣道連盟は、アメリカ、ブラジルに高段者の剣道使節団を派遣した。 8月 第1回中野節者講習会が大阪城内緑道館で開催された。	2月 東京の常住人口が推計で1000万人を突破。 10月 中国とインドが国境紛争で衝突。キューバ危機(ソ連とアメリカ戦)。 8月 米英ソが部分的核実験禁止条約調印。 11月 二井石油施設でガス爆発事故。死者438人。 タネゾイ米大統領暗殺。
昭和38年	6月 第11回全日本学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、関西学院大学の山崎清司が優勝した。 東西対抗戦は東軍が平戦0で勝利を収めた。 11月 第11回全日本学生剣道優勝大会が東京の日本大学の講堂で開催され、中央大学が優勝した。	6月 剣道、柔道等の高校教員検定制度が開設された。 10月 3日に日本武道館の閉館式が行われ、天皇皇后両陛下が御臨幸になった。 15日に第18回オリンピック東京大会のデモンストレーションとして、剣道が相対。巧達とともに日本武道館で実施された。 4月 全日本剣道連盟の定款を改正して会則として発行、幕府を削いだ。 5月 全剣道事務局(日本武道館)に移転した。 11月 第1回国際社会人剣道大会が台湾の台北市で開催され、日本、中国、アメリカ、沖縄の派遣選手が参加した。	7月 東海道新幹線開通。 8月 名神道新幹線開通。 10月 第18回東京オリンピック大会開催。 ソ連、ワルシャワ音相失脚。 中国、核実験成功。
昭和39年	6月 第12回全日本学生剣道選手権大会が東京体育館で開催され、早稲田大学の嶋田健二が優勝した。東西対抗戦は西軍が平戦4で勝利を収めた。 11月 第12回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、 <b>国士新大学</b> が優勝した。	6月 剣道、柔道等の高校教員検定制度が開設された。 10月 3日に日本武道館の閉館式が行われ、天皇皇后両陛下が御臨幸になった。 15日に第18回オリンピック東京大会のデモンストレーションとして、剣道が相対。巧達とともに日本武道館で実施された。 4月 全日本剣道連盟の定款を改正して会則として発行、幕府を削いだ。 5月 全剣道事務局(日本武道館)に移転した。 11月 第1回国際社会人剣道大会が台湾の台北市で開催され、日本、中国、アメリカ、沖縄の派遣選手が参加した。	7月 東海道新幹線開通。 8月 名神道新幹線開通。 10月 第18回東京オリンピック大会開催。 ソ連、ワルシャワ音相失脚。 中国、核実験成功。
昭和40年 (1965年)	6月 第13回全日本学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、関西大学の白藤一郎が優勝した。東西対抗戦は東軍が平戦12で勝利を収めた。 11月 第13回全日本学生剣道優勝大会が、武道の殿堂日本武道館ではじめて開催され、皇太子殿下と宮廷様が御臨幸になった。大会は、早稲田大学が優勝した。	4月 全日本剣道連盟の定款を改正して会則として発行、幕府を削いだ。 5月 全剣道事務局(日本武道館)に移転した。 11月 第1回国際社会人剣道大会が台湾の台北市で開催され、日本、中国、アメリカ、沖縄の派遣選手が参加した。	7月 東海道新幹線開通。 8月 名神道新幹線開通。 10月 第18回東京オリンピック大会開催。 ソ連、ワルシャワ音相失脚。 中国、核実験成功。
昭和41年	4月 学生大会の出場者資格の規定が定められた。 6月 第14回全日本学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、中央大学の下藤哲夫が優勝した。東西対抗戦は東軍が大勝戦の結果勝利を収めた。 11月 第14回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、 <b>国士新大学</b> が優勝した。	7月 道場連盟第1回全日本少年剣道連盟大会が日本武道館で開催された。 9月 第1回剣道審判講習会が日本武道館で開催された。 11月 第1回全日本剣道連合大会が大塚城緑道館で開催された。	2月 アメリカ軍、北ベトナムに爆撃開始。 8月 名神道新幹線開通。 6月 日韓基本条約調印。 11月 中国、文化大革命の兆し。 12月 朝永振一郎、ノーベル物理学賞受賞。
昭和42年	この年、昭和39年に全日本学生剣道連盟が結成されてから四十四年を迎えた。 6月 第15回全日本学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、慶應義塾大学の近藤勇助が優勝した。東西対抗戦は西軍が大勝戦の結果勝利を収めた。 11月 12日に第1回全日本女子学生剣道大会が日本武道館で開催され、日本体育大学の前田シン子が優勝した。 11月 20日に第15回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、東京教育大学が優勝した。 11月 26日に全日本学生剣道連盟15周年(昭和28年新発足)記念大会として、第1回全日本学生地域対抗剣道大会が神戸市立中央体育館で開催され、関東Bチームが優勝した。	10月 国際剣道大会が日本武道館で開催され、114国13団体が参加した。この時の代表者会議において国際剣道連盟を設立することが決議された。 7月 道場連盟第1回全日本少年剣道連盟大会が日本武道館で開催された。 9月 第1回剣道審判講習会が日本武道館で開催された。 11月 第1回全日本剣道連合大会が大塚城緑道館で開催された。	2月 米・ソ、月面軟着陸に成功。 4月 中国、社会主義文化大革命(～1970)。 6月 祝日法改正。敬老の日、体育の日など決まる。 4月 東京都知事選で革新系候補奥平道平が当選。 6月 アラブ諸国とイスラエル間の第3次中東戦争起こる。 8月 東南アジア諸国連合(ASEAN)結成。
昭和43年	2月 全日本学生剣道連盟から『全日本学生剣道連盟40周年記念誌』が発行された。この時の総加盟校は166校となった。 6月 第16回全日本学生剣道選手権大会と第2回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は国際学院大学の柳文彦、女子は国士新大学の石坂真智子が優勝した。東西対抗戦は東軍が平戦7で勝利を収めた。 11月 第16回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、 <b>国士新大学</b> が優勝した。	6月 全日本剣道連盟は、ハワイ移民百年祭記念剣道大会に11人の使節団を派遣した。 7月 全日本剣道連盟は明治百年記念剣道大会を日本武道館で開催し、同時に物故聖賢墓前及び現存功労者の表彰を行った。	4月 米人選権前着ケンゾウ暗殺。中野節者及足利定親調印。 5月 フランス、パリで学生デモ。5月革命。 8月 ソ連軍など親米5ヶ国(独・米・英・法・露)がチェコに侵入。 10月 明治百年祭。

昭和44年	<p>6月 第17回全日本学生新道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、中央大学の寺崎昭昭が優勝した。東西対抗戦は西軍が不戦二で勝利を収めた。</p> <p>8月 第2回全日本学生地域対抗剣道大会が愛知県体育館で開催され、東海Aチームが優勝した。</p> <p>11月 第17回全日本学生新道優勝大会と第3回全日本女子学生新道選手権大会が日本武道館で開催され、男子団体は中央大学、女子個人は<b>国士堂大学</b>の桑原水子が優勝した。</p>	<p>4月 全日本新道選手は特号審査規程および順位審査規程を改正、また試合規則および審判規則の一部を改正し、それをもって4月1日から実施した。</p> <p>10月 全日本新道選手は、神護、有馬に観望候補生22人を派遣した。</p>	<p>1月 機動隊、東大出陣等の糾弾解除。</p> <p>5月 東名高速道路全通。</p> <p>7月 アメリカ、アポロ11号が月着陸に成功、人類が月面を初歩行した。</p>
昭和45年 (1970年)	<p>6月 第18回全日本学生新道選手権大会と第4回全日本女子学生新道選手権大会が日本武道館で開催され、男子団体は<b>国士堂大学</b>の桑原水子が優勝した。</p> <p>11月 第18回全日本学生新道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、<b>国士堂大学</b>が優勝した。</p>	<p>4月 4日に国際新道連盟の創立総会が17ヵ国代表の参加によって東京ホテルボッセで開催された。</p> <p>4月 5日と6日両回新道選手権大会東京大会(個人戦)が日本武道館で、6日と7日両回大阪大会(団体戦)が大阪市中央体育館で行われ、団体、個人ともに日本代表が優勝した。</p> <p>8月 第1回全国中学校剣道大会が日本武道館で開催された。</p>	<p>3月 日本万国博覧会を大阪で開催。赤軍旗が自衛機をハイジャック、北朝鮮に引き渡。</p> <p>6月 日米安全保障協定延長。</p> <p>11月 三島由紀夫がグループA未選事件で判罪自裁。</p>
昭和46年	<p>6月 第19回全日本学生新道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、福岡大学の東原が優勝した。東西対抗戦は西軍が不戦二で勝利を収めた。</p> <p>7月 第3回全日本学生地域対抗剣道大会が名古屋体育館で開催され、東海Aチームが優勝した。</p> <p>11月 第19回全日本学生新道優勝大会と第5回全日本女子学生新道選手権大会が日本武道館で開催され、男子団体は専修大学が、女子個人は<b>国士堂大学</b>の佐藤清美が優勝した。</p>	<p>2月 全日本新道選手は財団法人設立許可申請が文部大臣から認可された。またこの月、全道連広報が創刊された。</p> <p>6月 全日本新道選手は日本武道館において創立20周年記念式典を挙行し、関係機界の祝賀書と功労団体の表彰式を行った。</p>	<p>6月 神護定選協定調印。</p> <p>6月 内閣府が臨時移行を決定。</p> <p>9月 国債増発。</p> <p>12月 インド・パキスタン戦争終結ころ。</p>
昭和47年	<p>7月 第20回全日本学生新道選手権大会と第6回全日本女子学生新道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は<b>国士堂大学</b>の石川武史、女子は同じく<b>国士堂大学</b>の古味美智子が優勝した。</p> <p>10月 第20回全日本学生新道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、<b>国士堂大学</b>が優勝した。</p>	<p>5月 神護風俗志望特別剣道大会が那覇高校体育館で行われた。</p>	<p>5月 神護の地権者選定、神護県発足。</p> <p>9月 日中国交正常化の共同声明。</p> <p>12月 東西ドイツが明確な基本条約調印。</p>
昭和48年	<p>6月 第21回全日本学生新道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、同志社大学の丸野雅彦が優勝した。東西対抗戦は西軍が不戦1で勝利を収めた。</p> <p>7月 第4回全日本学生地域対抗剣道大会が名古屋体育館で開催され、東海Aチームが優勝した。</p> <p>10月 第21回全日本学生新道優勝大会と第7回全日本女子学生新道選手権大会が日本武道館で開催され、男子団体は慶應義塾大学、女子個人は<b>国士堂大学</b>の黒原厚子が優勝した。</p> <p>6月 第22回全日本学生新道選手権大会と第8回全日本女子学生新道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は<b>国士堂大学</b>の宮沢保信、女子は東海大学の小原律子が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦14で勝利を収めた。</p> <p>10月 第22回全日本学生新道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、専修大学が優勝した。</p>	<p>1月 第1回高専者研委員会が東京四谷町高専会館で開催された。</p> <p>10月 財団法人全日本新道連盟が設立された。</p>	<p>1月 パリでベトナム和平協定調印。</p> <p>10月 第4次中東戦争。</p> <p>11月 第1次オイルショックで原油価格暴騰現象。</p>
昭和49年	<p>6月 第23回全日本学生新道選手権大会と第9回全日本女子学生新道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は<b>国士堂大学</b>の上杉直子が優勝した。東西対抗戦は西軍が大団戦の結果勝利を収めた。</p> <p>10月 第23回全日本学生新道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、専修大学が優勝した。</p>	<p>4月 中華民国剣道代表団15名が来日した。</p> <p>5月 「剣道の理念」「剣道練習の心構え」が制定された。</p> <p>8月 ニューヨーク剣道武蔵者修行団14名が来日した。</p> <p>8月 第1回外国人剣道指導者研究会が解散会録心録で開催された。</p>	<p>8月 アメリカ、ニクソン大統領がウォーターゲート事件で辞任。</p> <p>12月 佐藤栄作がノーベル平和賞受賞。</p>
昭和50年 (1975年)	<p>この年、河合勝輔氏が2代目の会長に就任された。</p> <p>7月 第24回全日本学生新道選手権大会と第10回全日本女子学生新道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、男子は慶應義塾大学の町吉孝、女子は<b>国士堂大学</b>の上杉直子が優勝した。東西対抗戦は西軍が大団戦の結果勝利を収めた。</p> <p>7月 第5回全日本学生地域対抗剣道大会が名古屋体育館で開催され、東海Aチームが優勝した。</p> <p>10月 第24回全日本学生新道優勝大会が日本武道館で開催され、法政大学が優勝した。</p>	<p>4月 中華民国剣道代表団15名が来日した。</p> <p>5月 「剣道の理念」「剣道練習の心構え」が制定された。</p> <p>8月 ニューヨーク剣道武蔵者修行団14名が来日した。</p> <p>8月 第1回外国人剣道指導者研究会が解散会録心録で開催された。</p>	<p>4月 南ベトナム、サイゴン陥落し、ベトナム戦争終結。</p> <p>7月 米、ソ連が戦略核兵器削減交渉を開始。</p> <p>11月 パリ協定で第1回先進6ヵ国首脳会議。</p>
昭和51年	<p>6月 第25回全日本学生新道選手権大会と第11回全日本女子学生新道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は大東文化大学の平井直樹、女子は東京教育大学の塚部あけみ(あけみ)が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦12で勝利を収めた。</p> <p>10月 第25回全日本学生新道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、専修大学が優勝した。</p>	<p>7月 財団法人全日本新道連盟が設立された。</p> <p>8月 台湾新道連盟が設立された。</p> <p>12月 幼少年剣道指導者を発刊した。</p>	<p>4月 中国で天安門事件、鄧小平失脚。</p> <p>5月 ロッシーニが国議解散。</p> <p>7月 ベトナム社会主義共和国成立。</p> <p>10月 中国、王洪文、汪青ら4人逮捕。</p>

昭和52年	6月 第25回全日本学生新選選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、和山県科大学の山城戸功が優勝した。東海対抗戦は東軍が不戦5で勝利を収めた。	4月 武道協議会の発会式が日本武道館で開催された。	5月 福岡12カイリ法・商業水城200カイリ暫定措置法成立。
	7月 第6回全日本学生地域対抗新選大会が名古屋市体育館で開催され、東海チームが優勝した。	6月 理事会、評議員会で、新選試合、審判規則一部改正案が承認されたが、施行時期は未定。	8月 中国共産党11全大会、文化大革命終結。
	10月 第25回全日本学生新選優勝大会と第1回全日本女子学生新選選手権大会が日本武道館で開催され、男子団体が同志社大学、女子個人は筑波大学の堀部みけみ子が連続優勝した。	9月 第1回全日本学生武道(新選)編成	11月 エジプトのヤグト大統領がイスラエル訪問。
昭和53年	7月 第26回全日本学生新選選手権大会と第1回全日本女子学生新選選手権大会が日本武道館で開催され、男子は同志社大学の赤木朝信、女子は拓殖大学短期大学部の長瀬梨恵子が優勝した。東海対抗戦は東軍が不戦12で勝利を収めた。	2月 国会議員有志により武道議員連盟が結成された。	5月 新東京国際空港(成田)が正式に開港。
	7月 第7回全日本学生地域対抗新選大会が広島県工業体育館で開催され、関東チームが優勝した。またこの年から全日本女子学生の地域対抗新選大会(第1回)が同時に開催されるようになり、関東チームが優勝した。	2月 19日に第1回古武道演武大会が日本武道館で開催された。	8月 北京で日中平和友好条約調印。
	10月 第26回全日本学生新選優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、中央大学が優勝した。		9月 アメリカー・イスラエル・エジプトが中東和平会議(キャンプデービッド合意)。
昭和54年	6月 第27回全日本学生新選選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、同志社大学の甲斐野司が優勝した。東海対抗戦は東軍が不戦5で勝利を収めた。	1月 第1回国際スポーツ少年団新選交流大会が代々木体育センターで開催された。	1月 アメリカ・中国の国交樹立。
	7月 第8回全日本学生地域対抗新選大会と第2回全日本女子学生地域対抗新選大会が名古屋市体育館で開催され、男子は関東、女子は九州が優勝した。	4月 1日から新しい「新選試合・審判規則」が実施された。	2月 エジプト・イスラエル平和条約。
	10月 第27回全日本学生新選優勝大会と第1回全日本女子学生新選選手権大会が日本武道館で開催され、男子団体が同志社大学、女子個人は日本体育大学の佐藤桃子が優勝した。	10月 日本武道館開館十五周年記念新選編成大会新選優勝大会が日本武道館で開催され、伊保隆次親士八段が優勝した。	3月 東京サミット(第五回先進国首脳会議)。
昭和55年 (1980年)	この年、松本敏夫氏が3日目の会長に就任された。	12月 理事会、評議員会で科学委員会の設置が承認された。	10月 科綱目大綱前編。
	6月 第28回全日本学生新選選手権大会と第14回全日本女子学生新選選手権大会が日本武道館で開催され、男子は中央大学の石本忠広、女子は筑波大学の内田敦生が優勝した。東海対抗戦は西軍が不戦1で勝利を収めた。		12月 ソ連軍がアフガニスタン侵襲。
	7月 第9回全日本学生地域対抗新選大会と第3回全日本学生地域対抗新選大会が石川県武道館で開催され、男女ともに関東が優勝した。		
	10月 第28回全日本学生新選優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、筑波大学が優勝した。		
昭和56年	7月 第29回全日本学生新選選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、筑波大学の山内浩介が優勝した。東海対抗戦は東軍が大団戦の結果勝利を収めた。	6月 新選試合・審判規則が一部改正された。	3月 韓国、デモ隊占拠の光州市に戒厳令。軍入り、光州事件。
	7月 第10回全日本学生地域対抗新選大会と第10回全日本女子学生地域対抗新選大会が名古屋市オオリエイホールで開催され、男子は九州、女子は東海が優勝した。	9月 試合・審判委員会が新設された。	7月 モスクワオリンピック。米、中、日などがイコット。
	10月 第29回全日本学生新選優勝大会と第15回全日本女子学生新選選手権大会が日本武道館で開催され、男子団体が中央大学、女子個人は筑波大学の原田敦子が優勝した。		9月 イラン・イラク戦争始まる。
昭和57年	7月 第30回全日本学生新選選手権大会と第16回全日本女子学生新選選手権大会が日本武道館で開催され、男子は同志社大学の佐藤朝、女子は東海大学の山口電子が優勝した。東海対抗戦は東軍が不戦4で勝利を収めた。なお、この30回大会の連盟加盟加盟団体はプロレス334校を擁し、北海道連盟(31)、東北連盟(27)関東連盟(92)、東海連盟(30)北信越連盟(16)、関西連盟(63)中国・四国連盟(30)、九州連盟(45)となっている。	6月 全日本新選連盟の30周年記念行事として、戦後初年度、長巻式、新選選手権連盟優勝大会を日本武道館で実施した。	4月 アルゼンチン軍、イギリスとフォークランド領争。
	7月 第11回全日本学生地域対抗新選大会と第5回全日本女子学生地域対抗新選大会が仙台市勤労体育館で開催され、男子は関東、女子は関東が優勝した。	6月 『30年史』を出版した。	5月 イスラエルがナイ半島をエジプトに全面返還。
	10月 第30回全日本学生新選優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、大阪体育大学が優勝した。		6月 アメリカで日経産業スバイ事件。
	11月 この年、第1回全日本女子学生新選優勝大会が名古屋市体育館で開催され、同志社大学が優勝した。		7月 中国が教科書着床問題で正式抗議。国際連盟委員会が商業捕鯨全面禁止案可決。

昭和56年	<p>7月 第31回全日本学生剣道選手権大会と第17回全日本女子学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、男子は大阪体育大学の石田利也、女子は筑波大学の田中実和が優勝した。東西対抗は東軍が不戦3で勝利を収めた。</p> <p>10月 第31回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、<b>国士館大学</b>が優勝した。</p> <p>11月 第2回全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市鶴舞スポーツセンターで開催され、<b>国士館大学</b>が優勝した。</p>	<p>11月 講義創設百周年記念武道大会が、天皇陛下の行幸を仰いで実施された。</p>	<p>9月 サハリン沖で、ソ連領空を侵犯した大韓航空機がソ連軍機に撃墜される。死者269人。</p> <p>10月 東京地震。ロッキード事件で田中元首相に有罪判決。徴収4年・追徴金6億円の裁判判決。</p>
昭和59年	<p>7月 第32回全日本学生剣道選手権大会と第18回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は筑波大学の佐賀貴、女子も同じく筑波大学の藤田弘美が優勝した。東西対抗は東軍が不戦1で勝利を収めた。</p> <p>7月 これまで毎年行われていた地域対抗戦が隔年実施となった。第12回全日本学生地域対抗剣道大会、第6回全日本女子学生地域対抗剣道大会が北海道釧路市内アイヌセンターで開催され、男子は東海、女子は東海が優勝した。</p> <p>10月 第32回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、<b>国士館大学</b>が優勝した。</p> <p>11月 第3回全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市鶴舞スポーツセンターで開催され、筑波大学が優勝した。</p>	<p>3月 全日本剣道選手権大会の出場資格を六段以上に制限すること、判定を採用することが決定した。</p> <p>6月 「日本剣道形の指極上の留意点」が決定した。</p> <p>8月 第1回全国空手道個人剣道大会が日本武道館で開催された。</p>	<p>1月 アフリカの組織拡大。</p> <p>3月 江崎アリ社長辞任事件。</p> <p>7月 ロサンゼルス・オリンピック、ソ連軍150人がボイコット。</p> <p>8月 臨時教育審議会発足、会長岡本道雄。</p> <p>10月 インド、インディラ・ガンディー首相がシーク教団に暗殺される。</p> <p>12月 イギリスと中国、1997年香港返還に正式調印。</p>
昭和60年 (1985年)	<p>7月 第33回全日本学生剣道選手権大会と第19回全日本女子学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、男子は中央大学の中山経友、女子は金沢大学の塚田麻呂が優勝した。東西対抗は東軍が不戦5で勝利を収めた。</p> <p>10月 第33回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、中央大学が優勝した。</p> <p>11月 第4回全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市鶴舞スポーツセンターで開催され、<b>国士館大学</b>が優勝した。</p>	<p>6月 「日本剣道整審会士の着眼点」「剣道試合運営について」が決定された。</p>	<p>3月 ソ連、チェルネンコ書記長死後、後任ゴルバチョフ。</p> <p>4月 N T T ・日本たばこ産業会社発足。</p> <p>5月 男女雇用機会均等法成立。</p> <p>8月 日航機墜落、死者520人。</p> <p>11月 コロンセア、事バドテルルス火山噴火。</p>
昭和61年	<p>7月 第34回全日本学生剣道選手権大会と第20回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は<b>国士館大学</b>の宮本敏雄、女子は筑波大学の神野が優勝した。東西対抗は東軍が不戦5で勝利を収めた。</p> <p>7月 第13回全日本学生地域対抗剣道大会と第7回全日本女子学生地域対抗剣道大会が福岡市の武道館で開催され、男女とも関東が優勝した。</p> <p>10月 第34回全日本女子学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、筑波大学が優勝した。</p> <p>11月 第5回全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市鶴舞スポーツセンターで開催され、中央大学が優勝した。</p>	<p>6月 試合規則の一部が改正された。</p> <p>9月 試合・審判規則改正のための特別委員会が発足した。</p>	<p>1月 アメリカ、スペースシャトル・チャレンジャー1号発進。</p> <p>2月 フィリピン、マルコス政権崩壊、アキノ新大統領。</p> <p>4月 ソ連、チェルノブイリ原発事故。</p>
昭和62年	<p>この年、丸山義一氏が団代目の会長に就任された。</p> <p>7月 第35回全日本学生剣道選手権大会と第21回全日本女子学生剣道選手権大会が大阪市中央体育館で開催され、男子は<b>国士館大学</b>の染谷恒治、女子は東海大学の森内歩美が優勝した。東西対抗は西軍が不戦4で勝利を収めた。</p> <p>10月 第25回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、<b>国士館大学</b>が優勝した。</p> <p>11月 第6回全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市鶴舞スポーツセンターで開催され、<b>国士館大学</b>が優勝した。</p>	<p>3月 「アマチュア規定」に代えて、「全剣道整審会規定」を制定した。</p> <p>4月 改定「剣道試合・審判規則」を制定した。</p> <p>5月 全日本女子剣道選手権大会を都道府県対抗剣道大会から分離独立させ、大阪の守山体育館で開催した。</p>	<p>1月 神戸で初の日本女性エビ患者が死亡。</p> <p>4月 国政分限・民営化、Jリーグ発足。</p> <p>11月 大韓航空機がシヤンマー上空で行方不明。</p> <p>12月 レーガン・ゴルバチョフ会談、1 N T 会談後の調印。</p>
昭和63年	<p>7月 第36回全日本学生剣道選手権大会と第22回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は<b>国士館大学</b>の田中実和、女子は東海大学の倉地美恵が優勝した。東西対抗は東軍が不戦5で史上はじめての引分となった。</p> <p>7月 第14回全日本学生地域対抗剣道大会、第8回全日本女子学生地域対抗剣道大会が広島市サンラヂオで開催され、男子は関東、女子は関西が優勝した。</p> <p>10月 第36回全日本学生剣道優勝大会が大阪市中央体育館で開催され、中央大学が優勝した。</p> <p>11月 第7回全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市鶴舞スポーツセンターで開催され、東海大学が優勝した。</p>	<p>8月 第1回女子剣道指導者講習会を横浜市市民センターで開催した。</p> <p>9月 第1回高齢者剣道講習会を富山県武蔵館で開催した。</p>	<p>5月 アフガニスタン駐留ソ連軍撤退開始。</p> <p>6月 リクルート事件発覚。</p> <p>佐藤・ヤタケ会談で3年後の日本の年内・オレンジ輸入自由化合意。</p> <p>9月 ソウルオリンピックでベネ・ジョンソンがドーピングテストの結果、金メダルをなくされる。</p>

昭和64年 (平成元)	7月 第37回全日本学生剣道選手権大会と第24回全日本女子学生剣道選手権大会が大阪府立体育館で開催され、男子は京都大学の松尾好郎、女子は青山学院大学の松下令子が優勝した。東西対抗戦は東軍が大特戦の活躍を収めた。	2月 文部省は、小中、高校の学習指導要綱改訂案を発表。体育の時間の増加と武道の名称が復活することになった。	1月 昭和天皇が崩御され、明仁親王が即位。新元号が「平成」と決定された。
平成2年 (1990年)	10月 第37回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、 <b>国士館大学</b> が優勝した。	3月 改選位置委員の延長を盛り込んだ「新学習要領・段階審査要領」が改定された。	4月 消費税実施。
	11月 第8回全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市霧峰スポーツセンターで開催され、 <b>国士館大学</b> が優勝した。	1月 全国種業福祉祭りおよび大会で、高齢者だけの第1回剣道義勇交流大会が開催された。	6月 中国、天安門広場で戒厳令軍が武力制圧。
	7月 第38回全日本学生剣道選手権大会と第24回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は東海大学の谷根二、女子は大阪体育大学の長野忍が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦4で勝利を収めた。	6月 全日本剣道選手権大会の出席賞状を緩和し、本年より5段の出場を認めることが決定された。	9月 総選挙選挙の東京会議。
	7月 第15回全日本学生地域対抗剣道大会、第9回全日本女子学生地域対抗剣道大会が福井県立武道館で開催され、男子・女子ともに関東が優勝した。		11月 ベルリンの壁崩壊。
	10月 第38回全日本学生剣道優勝大会が京都府体育館で開催され、筑波大学が優勝した。		
	11月 第9回全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市霧峰スポーツセンターで開催され、 <b>国士館大学</b> が優勝した。		
平成3年	この年、松本良輝氏が5代目の会長に就任された。	2月 『全剣道広報』を『剣道』と改題。	1月 多国籍軍がイラク攻撃開始、湾岸戦争突入。
	7月 第39回全日本学生剣道選手権大会と第25回全日本女子学生剣道選手権大会が大阪府立体育館で開催され、男子は京都大学の有田祐二、女子は中央大学の川原直也が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦2で勝利を収めた。	5月 広く一般剣道愛好者を対象とする月間大会が初めて開催された。	5月 インド、ラジフ・ガンジー暗殺。
	10月 全日本学生剣道連盟は、試合における二刀の使用禁止解除の決定を行った。	4月 丸根北下目ONET九段行幸の中に、皇統、国親、広報の事務を扱う分室を開設した。	6月 ロシア、エリツィン大統領就任。
	10月 第39回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、筑波大学が優勝した。	12月 関東女子社会人懇親大会が発足、第1回大会が羽生の菅原製作所体育館で開催された。	フィリピンのピナツボ火山大噴火。南アフリカのアパルトヘイト撤廃を宣言。
	11月 全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市霧峰スポーツセンターで開催され、麗星体育大学が優勝した。		12月 「夕陽」消滅し、69年の歴史に幕を閉じた。
平成4年 (1992年)	7月 第40回全日本学生剣道選手権大会と第26回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は中央大学の山下忠典、女子は中央大学の川原直也が初めて優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦1で勝利を収めた。	5月 第40回を迎えた京都大会の名称を全日本剣道選手権大会と改め、明治28年にはあった武徳会の大会から遷襲して、第88回選手権大会とした。	2月 マーストリヒト条約（欧州連合条約）調印、翌年11月発効。
	7月 第10回全日本学生地域対抗剣道大会、第10回全日本女子学生地域対抗剣道大会が宮城県スポーツセンターで開催され、男子は山形、女子は福岡が優勝した。また、この年をもって全日本地域対抗剣道大会は男女ともその幕を閉じることになった。	6月 新事業として剣道入段研修会を開催。新八段を中心として埼玉県民活動総合センターで3日間にわたって実施した。	4月 日ユーゴラビア解体。
	10月 第40回全日本学生剣道優勝大会が尼崎市記念総合体育館で開催され、中央大学が優勝した。	12月 全剣道設立40周年記念式典並びに祝賀会を両府県で開催した。また、『全剣道40年史』（剣道界と全剣連のあゆみ—の40年）を出版した。	6月 P.K.O協力法審議立。
	11月 第11回全日本女子学生剣道優勝大会が名古屋市霧峰スポーツセンターで開催され、東海大学が優勝した。		8月 中国、戦国歴史展立。
平成5年	6月 第41回全日本学生剣道選手権大会と第27回全日本女子学生剣道選手権大会が大阪府立体育館で開催され、男子は国士館大学の藤嶋成幸、女子は麗星体育大学の宮山百合香が優勝した。東西対抗戦は東軍が大特戦で勝利を収めた。	6月 大島 功会長の死去に伴い、影山二郎氏を会長に選任した。	9月 カンボジアP.K.O派遣。
	10月 第41回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、法政大学が優勝した。	12月 9千人余りの全七段以上の高段者名簿を初めて発行した。	毛利重、スペースシャトル「エンデバー」で宇宙へ。
	11月 第12回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、麗星体育大学が優勝した。		10月 天皇、皇后、中国訪問。
平成6年	7月 第42回全日本学生剣道選手権大会と第28回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は前年に続いて国士館大学の安藤成平、女子は国士館大学の高松明美が優勝した。東西対抗戦は東軍が大特戦で勝利を収めた。	6月 大島 功会長の死去に伴い、影山二郎氏を会長に選任した。	6月 皇太子、小和田雅子と結婚。
	10月 第42回全日本学生剣道優勝大会が大阪府立体育館で開催され、中央大学が優勝した。	10月 9千人余りの全七段以上の高段者名簿を初めて発行した。	7月 北海道両神地震、死者202人。
	11月 第13回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、筑波大学が優勝した。		8月 神川源内閣発足。
	7月 第43回全日本学生剣道選手権大会と第29回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は前年に続いて国士館大学の安藤成平、女子は国士館大学の高松明美が優勝した。東西対抗戦は東軍が大特戦で勝利を収めた。	10月 剣道社会体育指導員認定制度が文部省に認可された。	10月 同作のためココメの緊急輸入始まる。
	10月 第43回全日本学生剣道優勝大会が大阪府立体育館で開催され、中央大学が優勝した。		
	11月 第14回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、麗星体育大学が優勝した。		

平成7年 (1995年)	<p>7月 第43回全日本学生新道選手権大会と第29回全日本女子学生新道選手権大会が大阪府立体育会館で開催され、男子は筑波大学の菊川晋吾、女子は筑波大学の村山千賀が優勝した。東西対抗戦は東軍が大特戦で勝利を収めた。</p> <p>10月 第43回全日本学生新道優勝大会が日本武道館で開催され、国士館大学が優勝した。</p> <p>11月 第14回全日本女子学生新道優勝大会が愛知武道館で開催され、福岡教育大学が優勝した。</p>	<p>阪神・淡路大震災に対し、全新道として、見舞金を送る。</p> <p>3月 新道試合・審判規則を8年ぶりに改定、7月からの実施とする。</p> <p>5月 新道入段実習資格の年齢基準の48歳以上と46歳以上に改められ、合格者10名の内の5名は48歳未満であった。</p> <p>11月 新道人の新しい「朝服」制度による新道功労賞、新道有功賞を贈呈する。全日本新道選手権大会の出場資格を、20歳以上1日経営に拘らず出場できるようにした。</p>	<p>1月 阪神・淡路大震災、死者約6千人。 2月 地下鉄サリン事件起る。 3月 サハラン地震、死者約2千人。 中国、地下核実験。 8月 中国、地下核実験。 9月 広島、ミサイルの飛来で地下核実験。 10月 在国、ファンタワッフ危機で地下核実験開始、翌1月まで計6回。</p>
平成8年	<p>7月 第44回全日本学生新道選手権大会と第30回全日本女子学生新道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は同志社大学の立花義人、女子は筑波大学の小林千子が優勝した。東西対抗戦は東軍が大戦4で勝利を収めた。</p> <p>10月 第44回全日本学生新道優勝大会が大阪府立体育会館で開催され、近畿大学が優勝した。</p> <p>11月 第15回全日本女子学生新道優勝大会が愛知武道館で開催され、筑波大学が優勝した。</p>	<p>11月 全日本新道選手権大会に天皇・皇后両陛下の行幸啓を頂く。</p>	<p>1月 熊本龍太郎内閣発足。 3月 秋田新幹線開通。 7月 病源性大腸菌O157患者6千人を患す。 9月 田邊、包括的核実験禁止条約採択。 10月 長野新幹線開通。 12月 ベルギー日本人大使公邸で人質事件。</p>
平成9年	<p>この年、山本忠徳氏が6代目の会長に就任された。</p> <p>6月 第4回全日本学生新道選手権大会と第31回全日本女子学生新道選手権大会が大阪府立体育会館で開催され、男子は日本大学の原田真、女子は福岡教育大学の梅井智子が優勝した。東西対抗戦は東軍が大特戦で勝利を収めた。</p> <p>10月 第45回全日本学生新道優勝大会が日本武道館で開催され、筑波大学が優勝した。</p> <p>11月 第16回全日本女子学生新道優勝大会が愛知武道館で開催され、鹿屋体育大学が優勝した。</p>	<p>野山二郎会長の退任に伴い、武久義光氏を会長に選任した。</p> <p>9月 全日本女子新道選手権大会の優勝者に初の皇后陛下が授けられた。</p> <p>10月 第1回実習コンテストを開始した。</p>	<p>6月 編審科結成成立。 8月 タイアニア皇太子妃、交通事故死。 11月 北海道拓殖銀行、山一証券自主廃業。 12月 対人地雷全面禁止条約調印。</p>
平成10年	<p>この年、熊本龍太郎氏が7代目の会長に就任された。</p> <p>7月 第46回全日本学生新道選手権大会と第32回全日本女子学生新道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は明治大学の文彦忠臣、女子は早稲田大学の小野千子が優勝した。東西対抗戦は東軍が大戦1で勝利を収めた。</p> <p>10月 第46回全日本学生新道優勝大会が大阪府立体育会館で開催され、明治大学が優勝した。</p> <p>11月 第17回全日本女子学生新道優勝大会が愛知武道館で開催され、鹿屋体育大学が前年が続いて優勝した。</p>	<p>2月 全副連事務所を福岡九段南ビル2階に開設した。</p> <p>6月 第1回女子審判講習会を実施した。</p> <p>11月 全副連ホームページを開設した。初めての「竹(おはよ)新道員見聞録」の成案を得る。</p>	<p>4月 明石大橋開通。 5月 インド・パキスタン地下核実験。 7月 小淵三三内閣発足。 8月 北朝鮮、ミサイル発射。</p>
平成11年	<p>3月 第1回全日本学生新道オープン大会が倉敷市総合体育館で2日間にわたって開催された。大会の内容は、男女別に行われ、2段、3段以上の部に分けられ、当選者に登録する学生であれば誰でも参加できるものとした。今後、この大会は隔年で行うこととした。</p> <p>6月 第47回全日本学生新道選手権大会と第33回全日本女子学生新道選手権大会が大阪府立体育会館で開催され、男子は国士館大学の権威功善、女子は福岡教育大学の河野裕子が優勝した。東西対抗戦は西軍が大戦2で勝利を収めた。</p> <p>9月 新道部関係において上級生による下級生への暴行致死事件が発生した。</p> <p>10月 第47回全日本学生新道優勝大会が日本武道館で開催され、鹿屋体育大学が優勝した。</p> <p>11月 第18回全日本女子学生新道優勝大会が愛知武道館で開催され、鹿屋体育大学が3年連続して優勝した。</p>	<p>4月 「新道試合・審判規則、朝服、付帯実習」が制定、施行される。</p> <p>5月 京都武徳館の創立40周年記念式典を行い、武徳館朝服に記念碑を建てる。</p> <p>6月 「新道称号・段位審査規則」が制定される。</p> <p>11月 「新道称号・段位審査規則、付帯実習要領」が制定される。</p>	<p>2月 原子女電電量が大電力発電量を破く。 3月 瀬戸内しまなみ海運開通。 8月 国庫・国庫法成立。 9月 核燃料工場で国内初の臨界事故。台湾大震災、死者約2千4百人。</p>
平成12年 (2000年)	<p>7月 第48回全日本学生新道選手権大会と第34回全日本女子学生新道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は筑波大学の宮川俊次、女子は福岡教育大学の原田真が優勝した。東西対抗戦は東軍が大特戦で勝利を収めた。</p> <p>10月 第48回全日本学生新道優勝大会が大阪府立体育会館で開催され、明治大学が優勝した。</p> <p>11月 第19回全日本女子学生新道優勝大会が愛知武道館で開催され、鹿屋体育大学が4年連続して優勝した。</p> <p>12月 昭和61年3月から実施していた評議員制度を理事会議制度に移した。</p>	<p>4月 新道称号・段位審査規則、朝服ならびに東地要領が改訂、施行される。「龍士」を最高位とした。</p> <p>6月 称号・段位審査規則の改定により廃止された、称号の改訂に伴う制度として、朝服等の贈呈に関する実施要領を決定した。</p> <p>9月 審判技術向上と連日、新道の質の向上を目指すため、基幹講師会員の研修会を実施した。</p> <p>11月 新道社会体育指導員初級資格取得者を対象とする第1回「年輪」養成講習会を実施した。</p>	<p>3月 有珠山噴火。 4月 森喜朗内閣発足。 6月 南北朝鮮首脳が平壤で初会談。 9月 三宅島再噴火、全島避難。</p>

平成13年	<p>7月 第49回全日本学生新道選手権大会と第38回全日本女子新道選手権大会が大阪府立体育会館で開催され、男子は摂政大学の田中純、女子は筑波大学の村木千恵子が優勝した。東西対抗戦は西軍が大得意戦で勝利を収めた。</p> <p>第2回全日本学生新道オープン大会が仙台市体育館で開催された。</p> <p>10月 第49回全日本学生新道優勝大会が日本武道館で開催され、筑波大学が優勝した。</p> <p>なお、この大会の前日に全日本学生連合会の発足式が行われた。</p> <p>11月 第20回全日本女子学生新道優勝大会が愛知県武道館で開催され、鹿屋体育大学が5年連続して優勝した。</p> <p>なお、大会前日には全学生フォーラムにおいて、本大会20周年記念事業として、橋本龍太郎会長により『21世紀を考える』と題する記念公演が行われた。</p>	<p>3月 六、七校選考科目の学科を今年から取止めることを決定した。</p> <p>7月 41名の医学専門家の寄稿による『新道医学Q&amp;A』が刊行される。</p> <p>9月 東宮で実施した同時多発テロに対し、日本赤十字社を通じて被災者に見舞金を贈見した。</p>	<p>4月 小泉純一郎内閣発足。</p> <p>9月 米田ニューヨーク、ワシントン同時多発テロ起きる。</p> <p>10月 米英団がアフガニスタンのタリバンを攻撃。翌月タリバン政権崩壊。</p>
平成14年	<p>7月 第50回全日本学生新道選手権大会と第39回全日本女子新道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は中央大学の野口貴志、女子は鹿屋体育大学の村原佳香が優勝した。東西対抗戦は当選型の50周年記念大会として、男子2組、女子5組の他、海外招待選手3組の対抗試合を実施した。男子は試合が6分44秒で10、女子も西軍が2対1引分2で勝利を収めた。</p> <p>なお、この大会日を含む6日から8日にかけて、J&amp;Gホールセンターにおいて当選型創立50周年記念事業として、海外選手33名を招待し、「全学生新道選考委員会」を組織、橋本龍太郎会長により「伝統文化としての新道」と題する記念公演も行われた。</p> <p>また、大会当日には、ワーナー・ボード（和名明治）氏の記念講演が行われた。なお、同氏は学生新道普及委員会の功績により、橋本会長より感謝状が贈見された。</p> <p>10月 第50回全日本学生新道優勝大会が大阪府立体育会館で開催され、筑波大学が前年において優勝した。</p> <p>11月 第21回全日本女子学生新道優勝大会が愛知県武道館で開催され、筑波大学が優勝した。</p> <p>なお、この大会には新橋宮河殿下のご臨席を賜り、優勝大学主将が殿下から杯を賜った。</p>	<p>10月 『新道試合・審判運営の手引き』が完成、頒布された。</p> <p>11月 初年全日本新道選手権大会に合わせ、全新道創立50周年記念大会を2日間にわたって開催し、全日本選抜新道八段優勝大会、外国人をも加えた各層の演説を行った。</p> <p>12月 全新道創立50周年記念式典ならびに筑波総会大会、入段のホテルグランドホテルで開催した。</p>	<p>1月 『ニューロ』改題12号目で流通開始。</p> <p>9月 小泉首相内閣、金正日総書記訪米を断罪。10月拉致被害者5人帰国。</p> <p>10月 チェルノブイリ原発事故、モスクワの劇場占拠事件。</p>
平成15年	<p>3月 第1回全日本学生連合友誼選考大会が熊本県体育館で開催された。</p> <p>7月 第51回全日本学生新道選手権大会と第37回全日本女子学生新道選手権大会が大阪府立体育会館で開催され、男子は関西大学の西村健、女子は筑波大学の奥根雅が優勝した。東西対抗戦は東軍が大得意戦で勝利を収めた。</p> <p>10月 第51回全日本学生新道優勝大会が日本武道館で開催され、大阪体育大学が優勝した。</p> <p>11月 第22回全日本女子学生新道優勝大会が愛知県武道館で開催され、筑波大学が前年において優勝した。</p> <p>第3回全日本学生新道オープン大会が金沢市総合体育館で開催された。</p>	<p>1月 『新道の歴史』を刊行した。</p> <p>『新道神楽博物館』の開設、「新道殿堂」を設けた。</p> <p>2月 『日本新道形解説書(英語版)』を発行した。</p> <p>4月 『新道講習会資料』(新道指導法、日本新道形)を発行した。</p> <p>5月 新道守一 段位審査規則、詳細ならびに実施要領を訂正、発行される。『全新道50年史』を刊行した。</p> <p>設立40周年以降を中心とした「創世」の史料による『創世スペシャル』を刊行した。</p> <p>6月 『木村』による新道基本技術古法』を発行した。</p> <p>12月 『新道医学・救急ハンドブック』が完成、頒布した。</p>	<p>3月 米軍、イラク攻撃開始。12月フセイン前大統領を拘束。</p> <p>6月 有事関連立法成立。</p> <p>7月 国立大学法人法成立。</p> <p>9月 十勝沖地震。</p>
平成16年	<p>7月 『全日本学生新道選考 50周年記念誌 学連1年の歩み』を発行する。</p> <p>第52回全日本学生新道選手権大会と第38回全日本女子学生新道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は中央大学の伊藤圭介、女子は筑波大学の柳崎紗弥が優勝した。東西対抗戦は東軍が不戦1で勝利を収めた。</p> <p>10月 第52回全日本学生新道優勝大会が大阪府立体育会館で開催され、日本7大学が優勝した。</p> <p>11月 第23回全日本女子学生新道優勝大会が愛知県武道館で開催され、中央大学が優勝した。</p>	<p>3月 『新道究極形規定』を制定した。</p> <p>5月 第百回記念全日本新道選考大会において、『日本新道選考大会のあゆみ』(自由形による武術祭大演武大会)と『記念リーフレット』を参加者に配布した。</p> <p>10月 新潟県中越地震が発生し、全新道より新潟県新道選考2対し、見舞金を贈る。</p>	<p>1月 鳥インフルエンザ騒動。</p> <p>2月 陸上自衛隊隊イラク・サマウ入り。</p> <p>5月 小泉首相平塚訪問、拉致被害者5人帰国。</p> <p>6月 有事関連立法成立。</p> <p>10月 新潟県中越地震。死者68人。</p> <p>12月 スマトラ沖大地震 (M9)、インド洋沿岸に大津波死者12万人。</p>
平成17年 (2005年)	<p>7月 第53回全日本学生新道選手権大会と第39回全日本女子学生新道選手権大会が大阪府立体育会館で開催され、男子は鹿屋体育大学の若川龍也、女子は清和大学の藤見由紀子が優勝した。東西対抗戦は西軍が不戦2で勝利を収めた。</p> <p>10月 第53回全日本学生新道優勝大会が日本武道館で開催され、鹿屋体育大学が優勝した。</p> <p>11月 第24回全日本女子学生新道優勝大会が愛知県武道館で開催され、清和大学が優勝した。</p> <p>第4回全日本学生新道オープン大会が嵐南体育館で開催された。</p>	<p>8月 『KXPO新道フェスティバル』を開催した。</p> <p>『新道守一 段位審査規則と解答例(初段〜五段)』を発行した。</p> <p>9月 年齢45歳以上、紳士7段以上、中級取得線4歳以上を対象とする第1回社会体育指導員新道(上級)養成講習会を実施した。</p> <p>11月 『日本アンダーレッキング機構(JA DA)』に加盟した。</p>	<p>2月 二酸化炭素削減の京都議定書発効。</p> <p>3月 福岡県西の方沖地震。</p> <p>4月 国連が日本軍がアフガニスタンに侵襲を断罪。</p> <p>8月 ハリダーン・カトリーナ米ニューオーリンズに上陸、被害大。</p> <p>10月 パキスタン大津波。死者約9万人。道路が閉鎖多数化、新社会発足。</p>



平成18年	7月 橋本会長の急逝により、島原副会長が会長代行となる。 第54回全日本学生剣道選手権大会と第40回全日本女子学生剣道選手権大会が正式名称で開催され、男子は大塚体育大学の大会で、女子は筑波大学の依久間園子が優勝した。東西対抗戦は東軍が大特戦で勝利を収めた。	4月 『個人情報保護に関する方針』（個人情報保護委員会）を制定、施行した。 国際剣道連盟の国際競技団体連合（GAISF）加盟が承認された。国際剣道連盟の略称を「IFK」から「FIK」に変更した。 F I Kは「世界アンチドーピング機構（WADA）」に加盟した。	5月 ジャワ島地震、死者約6千人。 7月 陸上自衛隊、イラク撤収完了。 9月 阿倍晋三内閣発足。 10月 北朝鮮、地下核実験。
	10月 第54回全日本学生剣道優勝大会が大塚体育会館で開催され、日本大学が優勝した。	5月 第1回女子審判法研修会を実施した。 12月 台場・台定で開催された第13回世界剣道選手権大会で男子団体で日本が不発の3位となる。	
平成19年	11月 第25回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、埼玉大学が優勝した。 この年、島原副会長氏が8代目の会長に就任された。	3月 『剣道指導の心構え』を制定した。 『全日本剣道連盟アンチ・ドーピング規程』を制定した。	7月 新潟県中越前地震、柏崎刈羽原発運転中止命令。 10月 郵政民営化。 11月 福田康夫内閣発足。 山中教授ら、IPS細胞作成。
	7月 この年から男子選手権大会を2日間開催とし、3年間を試行期間として開催運営が主管することとした。この年は2日間を男女混合で開催した。 第55回全日本学生剣道選手権大会と第41回全日本女子学生剣道選手権大会が大塚体育会館で開催され、男子は福岡体育大学の山城諒、女子は筑波大学の依久間園子が前年に続いて優勝した。 この年から東西対抗戦に女子10名による勝敗戦が開催され、この年は男女とも2日目の開催とした。男子は東軍が不発4、女子は西軍が大特戦で勝利を収めた。 この大会から定額制に掲げる各大学部属の寸法を統一した。	7月 新潟県中越前地震が発生し、全剣道より新潟県剣道連盟に対し、見舞金を贈る。	
	10月 第55回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、国士郎大学が優勝した。		
	11月 第26回全日本女子学生剣道優勝大会がスライムホール豊田で開催され、日本体育大学が優勝した。		
	12月 第56回全日本学生剣道オープン大会が長野市がフットランドで開催された。		
平成20年	7月 2日開催3年目の男女選手権大会および東西対抗戦は、初日を女子、2日目を男子として実施した。 第56回全日本学生剣道選手権大会と第42回全日本女子学生剣道選手権大会は大塚体育会館で開催され、男子は国士郎大学の島中安輔、女子は大塚体育大学の堀内今日子が優勝した。 東西対抗戦では男子は西軍が大特戦、女子は東軍が大特戦で勝利を収めた。	3月 『木刀による剣道基本技術習法（実演版）』を発行した。 『武蔵必修化に向けた決議』を文部科学省に出して手配した。	2月 海自イージス艦あたご、悪戦と衝突。 5月 中国四川各地地震、死者・行方不明者約8万人。 6月 東京米軍基地で施設関係者死傷事件。 9月 麻生太郎内閣発足。 10月 米国発金融危機深刻化。各国公的資金を金融機関に投入。 11月 航空自衛隊、イラクから撤収。
	10月 第56回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、国士郎大学が前年に続いて優勝した。	7月 『剣道指導要領』を発行。	
	11月 第27回全日本女子学生剣道優勝大会が愛知県武道館で開催され、筑波大学が優勝した。		
平成21年	7月 2日開催3年目の男女選手権大会および東西対抗戦は、前年度大会方式が好評であったため、再度初日を女子、2日目を男子として実施した。 第57回全日本学生剣道選手権大会と第43回全日本女子学生剣道選手権大会が大塚体育会館で開催され、男子は筑波大学の西野倫が優勝した。 東西対抗戦では男子は東軍が大特戦、女子は西軍が大特戦で勝利を収めた。	4月 中学校における剣道指導手引書『剣道授業の展開』を発行した。 12月 『剣道指導の手引（二刀編）』を発行した。	4月 米国とメキシコで新型インフルエンザ発生、各国に拡大。 9月 鳩山由紀夫内閣発足。 新型インフルエンザ国内で流行。 11月 オバマ米大統領発着。
	10月 第57回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、筑波体育大学が優勝した。		
	11月 第28回全日本女子学生剣道優勝大会が春日井市総合体育館で開催され、筑波大学の前年に続いて優勝した。		
	12月 第6回全日本学生剣道オープン大会が仙台市体育館で開催された。		

平成22年 (2010年)	<p>7月 この年から関東選抜も男女選手権大会を2日間開くとする体制が整ったため、再び関東および西選抜が1年交代で主催することとした。また、のちの大会に代わり初日を女子、2日を男子として実施することとした。</p> <p>第58回全日本学生新選選手権大会と第4回全日本女子学生新選選手権大会が広島県福山市で開催され、男子は国際体育大学の木谷洋介、女子も国際体育大学の橋本恵が優勝した。</p> <p>東西対抗戦では男子（第57回）は東軍が不戦1、女子（第4回）も東軍が不戦3で勝利を収めた。</p> <p>10月 第58回全日本学生新選優勝大会が大坂府立体育会館で開催され、早稲田大学が優勝した。</p> <p>11月 第29回全日本女子学生新選優勝大会が春日井総合体育館で開催され、早稲田大学が優勝した。</p>	<p>9月 スポーツアワード・コンバントゲームズ（第22回大会）が中国・北京で103団体を集め開催された。韓国も1FKとして120名が参加し、演武（武芸）という独自の文化的価値を一般にPRした。</p>	<p>1月 ハイテク博覧、死者31万余名。 2月 ナリ大地震、死者約8百人。 6月 菅直人内閣発足。 8月 パキスタン大洪水、自衛隊派遣。 9月 広島県高井で海上保安庁の巡視船に中国漁船が衝突。 10月 ナリ、蔵山落盤事故、70日ぶりに全員生還。 11月 北朝鮮、韓国の特種部隊を砲撃。</p>
平成23年	<p>3月 11日の東日本大震災により、東北選抜が多大な被害を受けた。当選選では東北選抜に15百万円の見舞金を出発、今年東選抜、大分選抜の優勝等の支援を行う他、東北選抜を除く経験者から1人当たり200円を集め、総額220万円を被災者支援金として各県別に配した。</p> <p>7月 第59回全日本学生新選選手権大会と第45回全日本女子学生新選選手権大会が大坂府立体育会館で開催され、男子は国士館大学の藤田弘平が優勝した。</p> <p>東西対抗戦では男子（第58回）は東軍が不戦1、女子（第5回）は西軍が大得意で勝利を収めた。</p> <p>『全日本女子学生新選優勝大会記念誌 30年の歩み』を発行する。</p> <p>10月 第59回全日本学生新選優勝大会が日本武道館で開催され、筑波大学が優勝した。</p> <p>11月 第30回全日本女子学生新選優勝大会が春日井総合体育館で開催され、筑波大学が優勝した。</p> <p>12月 第7回全日本学生新選オープン大会が札幌市北海道立総合体育センター北海道きたえーるで開催された。初段以下の部の出場者が減少したため、今年選抜も男女とも2段以下を3段以上の2部制とした。</p>	<p>大震災支援金として岩手・宮城・福島の高3県の前年に各250万円、その他も5万円計計上し、分限計1853万円を拠出、合計1000万円の支援を決定する。</p> <p>4月 称号・段位審査規則の一部を改定し、初段定着資格を「一級受有者で満13歳以上の者」とした。</p> <p>8月 『新聞和歌山版（第二版）』を発行。</p> <p>11月 英文による『数土』第21号が初めて完成され、8名が受賞、7名が合格した。</p>	<p>1月 チェニア独裁体制崩壊。 2月 エジプト、ムバラク政権崩壊。 ニューヨークで地震、日本人28人を巻き込み8人死亡。 3月 11日4時28分「東北地方太平洋沖地震 M9.0、震度7」が発生、死者・行方不明約2万人、福島第1原子力発電所事故が発生し、40万人を超え被災者が国内各地や海外に被災者への避難を命じられた。警戒区域外でも、放射性物質漏れによる汚染が起きているほか、日本の原子力発電所の再稼働問題、電力危機なども懸念されている。 九州新幹線開通。 7月 女子サッカー・ワールドカップででしごジャパン優勝。 8月 野田内閣内閣総辞任。 リビヤ、カタリイ政権崩壊。 台風12号、15号、死者・行方不明者1200余名。 10月 ドル、1時7分32秒の戦後最長安眠。タイ、国上の3分の1が未収。</p>
平成24年	<p>3月 60周年記念事業として、佐藤成明団長以下26名が第2回日欧交流親善使節団としてフランスに渡る。</p> <p>7月 第40回全日本学生新選選手権大会と第46回全日本女子学生新選選手権大会が日本武道館で開催され、男子は国士館大学の小森田浩が優勝した。</p> <p>東西対抗戦は男子（第59回）が東軍が不戦2、女子（第6回）は西軍が大得意で勝利を収めた。</p> <p>なお、この大会第1日目に、ホテルグランプリルにはおいて、『全日本学生選抜創立60周年祝賀会』を開催した。</p> <p>10月 第60回全日本学生新選優勝大会が大坂府立体育会館で開催され、国士館大学が優勝した。</p> <p>当選選のホームページを開設した。</p> <p>11月 第31回全日本女子学生新選優勝大会が春日井総合体育館で開催され、国際体育大学が優勝した。</p>	<p>4月 公益法人制度改革に伴い、一般財団法人として発足した。これに伴い、評議員は従来の都道府県代表だけでなく、関係団体の関係者・学識経験者を加えた。</p> <p>中学校体育教師に武道が必修科目として実施開始となる。全体の3分の1の学校で実施が採用された。</p> <p>6月 昭和22年8月号より創設に実施されてきた『まど』がこの月発行された7月号で300回数を果たした。</p>	<p>1月 イタリヤ豪華客船田嶋転覆。 2月 スカイツリー完成、5月開業。 3月 安曇川舟倉を襲撃。 7月 九州で2回連続の豪雨。 8月 韓国李明博大統領、竹島に上陸。 9月 中国、尖閣諸島国有化に反発し上陸。 12月 北朝鮮、人工衛星発射ミサイル発射。韓国、初の女性大統領朴槿恵誕生。安倍晋三内閣発足。</p>
平成25年	<p>7月 第41回全日本学生新選選手権大会と第47回全日本女子学生新選選手権大会がBODOMAKロシム（旧大坂府立体育会館）で開催され、男子は日本体育大学の村瀬誠、女子は国際体育大学の田田菜子に優勝した。</p> <p>東西対抗戦では、男子（60回）は東軍が不戦4、女子（第7回）は大得意で西軍が勝利を収めた。</p> <p>11月 第61回全日本学生新選優勝大会が日本武道館で、第22回全日本女子学生新選優勝大会が春日井総合体育館で開催され、男子は筑波大学、女子は国士館大学が優勝した。</p> <p>12月 第8回全日本学生新選オープン大会が広島グリーンアリーナで開催された。</p>	<p>3月 文部科学省の「平成25年度武道等指導者（専修）」の委託を受け、武道等指導者実務化委員会を設置し、各種事業を開催、実績報告を文部科学省に提出した。</p>	<p>3月 広島県議、第4回県議会選挙で一票の格差は是正されなかったため広島1区、2区での選挙を無効とする判決を下す。 5月 東京スカイツリーからのテレビ放送開始。 6月 埼玉で発生豪雨発生。 7月 参議院選挙、おしげ国会解散。 8月 高知県四万十市で国内最高気温を観測。 11月 広島高島山火災、一票の格差の急、7月の参議院選で意見かつ無効判決、参議院選挙で再発防止の法内閣内閣。 12月 特定秘密保護法が可決。</p>
平成29年	<p>7月 第42回全日本学生新選選手権大会と第48回全日本女子学生新選選手権大会が日本武道館で開催され、男子は梅ヶ谷祥、女子は本年が初めて優勝した。</p> <p>東西対抗戦では、男子（61回）は東軍が不戦1、女子（第8回）は東軍が大得意で勝利を収めた。</p> <p>11月 竹ノ谷依也が第42回全日本新選選手権大会で学生で143年ぶりの優勝を果たした。</p> <p>第35回全日本女子学生新選優勝大会が春日井総合体育館で、第42回全日本学生新選優勝大会がBODOMAKロシムで開催され、女子は国士館大学、男子は国際体育大学が優勝した。</p> <p>12月 第49回全日本学生新選オープン大会が長野有馬総合スポーツアリーナで開催された。</p>	<p>3月 『数選と写真に見る剣道文化史』を発行した。 4月 『全日本新選選抜選手権（本選）規則』を「一回レビング禁止規定」を改正し、施行した。</p>	<p>4月 消費税55%から48%に引き上げられる。 7月 集団的自衛権の行使を認める憲法解釈の変更も協議決定。 8月 広島県北広島で大規模土砂災害。 9月 韓国山火発生し、被害者の救済計画が発表された。 12月 小惑星探査機「はやぶさ2」打ち上げ。</p>

平成27年	<p>7月 第63回全日本学生剣道選手権大会と第49回全日本女子学生剣道選手権大会が大阪府立体育館で開催され、男子は林田匡平、女子は高橋希子が優勝した。東西対抗戦では男子(65回)は東軍が大勝利、女子(66回)は東軍が大勝利で勝利を収めた。</p> <p>11月 第34回全日本女子学生剣道優勝大会が春日井市総合体育館で、第63回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、女子は福岡体育大学、男子は筑波大学が優勝した。</p> <p>12月 第10回全日本学生剣道オープン大会が宮城県総合運動公園で開催された。</p>	<p>11月 西村英久が第63回全日本選手権大会で初優勝を果たした。</p>	<p>6月 日本年金機構、加入者の氏名や基礎年金番号を修正する。 改正公職選挙法が成立され、18歳と19歳が有権者になる。 9月 安全保甲関連法が成立。</p>
平成28年	<p>7月 第64回全日本学生剣道選手権大会と第50回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は山田凌平(明治大学2年)、女子は小川萌々(日本体育大学2年)が優勝した。東西対抗戦では、男子(66回)は東軍が大勝利、女子(67回)は西軍が大勝利で勝利を収めた。</p> <p>10月 第64回全日本学生剣道優勝大会がエディオンアリーナ大阪で開催され、大阪体育大学が優勝した。</p> <p>11月 第34回全日本女子学生剣道大会が春日井市総合体育館で開催され、福岡体育大学が優勝した。</p> <p>12月 第11回全日本学生剣道オープン大会が千歳市開成記念総合武道館で開催された。</p>	<p>11月 藤見洋介(慶応体育大学・神奈川県警)が第64回全日本選手権大会で初優勝を果たした。</p>	<p>3月 北海道新幹線(新青森-新函館北斗間)開通。 4月 熊本県選挙区、県民を報酬。 6月 小沢リサ、自民党。 7月 小池百合子氏が都知事に初当選。 8月 リオデジャネイロにてオリンピック開催。 天皇陛下、退位のご意向が、 11月 ドナルド・トランプ氏がアメリカ大統領に当選。</p>
平成29年	<p>7月 全日本剣道連盟副連功賞を授与された高野崇彦(全日本剣道連盟会長)に全日本学生剣道連盟より記念品が贈呈された。第65回全日本学生剣道選手権大会と第51回全日本女子学生剣道選手権大会が日本武道館で開催され、男子は教皇龍太郎(福岡体育大学2年)、女子は大塚ひな(筑波大学4年)が優勝した。東西対抗戦では、男子(67回)は東軍が大勝利、女子(68回)は東軍が大勝利で勝利を収めた。</p> <p>10月 第65回全日本学生剣道優勝大会が日本武道館で開催され、筑波大学が優勝した。</p> <p>11月 第36回全日本女子学生剣道優勝大会が春日井市総合体育館で開催され、日本体育大学が優勝した。</p> <p>12月 第12回全日本学生剣道オープン大会が広島グリーンアリーナで開催された。</p>	<p>11月 西村英久(筑波大学・熊本県警)が第65回全日本選手権大会で2度目の優勝を果たした。</p>	<p>2月 「ブレミアムアワー」初実施。 5月 安倍晋三が2020年の憲法改正目標表明。 6月 天皇退位特例法が成立。 7月 「神ノ島」特選遺跡に。 11月 豊後国(いさな)を公表。</p>

参考文献：全日本学生剣道連盟『40周年記念誌』平成6年10月  
全日本学生剣道連盟『50周年記念誌』平成16年7月  
関東学生剣道連盟『30周年記念誌』昭和57年9月  
関東学生剣道連盟『50周年記念誌』平成13年10月  
群馬県立全日本学生剣道連盟『50周年誌』平成13年5月  
一般財団法人全日本剣道連盟『創設 平成25年1月号』平成25年1月  
古川弘文『日本学生年表・地域』平成24年4月  
古川弘文『世界学生年表・地域』平成24年4月